



学校だより

錦城の詩

平成25年(2013年)

2月19日(第18号)

明石市立錦城中学校

雑感

校長 荒井 拓

NHK 大河ドラマ「八重の桜」が人気となっているらしいですね。朝の連ドラ「ゲゲゲの女房」の山本むつみ氏脚本だから当然なのかもしれません。私は数回しか見ておりませんが、皆様のご家庭ではどうでしょうか。家族視聴番組のひとつとなっているのでしょうか。舞台は会津藩。会津藩といえば白虎隊の他、「什(じゅう)の掟(おきて)」であります。以下に示してみます。

当時、同じ町に住む6歳から9歳までの藩士の子ども達は、10人前後で遊び仲間を構成(これを「什」といった)。毎日この掟を言い聞かされ、違反した者がいないかどうか確認しあったとのこと。もし違反があれば、違反に応じた制裁があったそうです。ご覧になってどうでしょうか？現代とはまるで違う時代背景ですが、なんとなく頷ける部分も多くあると思うのですが…。年長者を敬う心であったり、集団生活にとってなくてはならない戒めであったり、自分を律する精神であったり、幼年者にとって重要な躰の基本教育が謳われていると思います。

什の掟

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりません
 - 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
 - 一、嘘言を言ふことはなりません
 - 一、卑怯な振舞をしてはなりません
 - 一、弱い者をいぢめてはなりません
 - 一、戸外で物を食べてはなりません
 - 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません
- ならぬことはならぬものです

最近、子ども達の自主性や内から出る能力開発などを期待して「～しよう」「～しましょう」といった奨励的表現が多いのですが、一方、「什の掟」のような「～なりません」といった戒め的表現が少なくなってきました。勿論、前者は前者で健全な育成方法だし、伸びしろも大きくなることには異論を唱えるものではありません。が、「ならぬことはならぬものです」という強調の言い切りにも熱意や愛情、地域人としての躰の気概、迫力といったものを感じるの私だけでしょうか。異年齢の子もたちが群れて育つ中で、「教え」を通じて義務感や責任感、尊敬の念が芽生えていくことを考えると今更ながら「鉄は熱いうちに打て」「三つ子の魂百まで

も」「眼は自ら見ず、刀は自ら割かず」といった言葉が浮かんできます。我「明石藩」にもこのような教えがあったのでしょうかねえ…。この会津「什の掟」は会津若松市において脈々と受け継がれており、現在「あいづっこ宣言」として、青少年の心を育てる市民行動プランとして誇りとなっているそうです。今風「什の掟」も記しておきます。錦城校区でも三者連携のもと、共に考え、共に行動できればなあと感じています。

あいづっこ宣言

- 1 人をいたわります
- 2 ありがとう ごめんなさいを言います
- 3 がまんをします
- 4 卑怯なふるまいをしません
- 5 会津を誇り年上を敬います
- 6 夢に向かってがんばります

やっではならぬ やらねばならぬ
ならぬことは ならぬものです

ひょっとしたら、「〇〇家家訓」なるものが代々、形となっているご家庭もあるかもしれませんね。

平成25年度錦城中学校 PTA 三役決まる！

先日、2月13日(水)午後7時より本校家庭科室において第1回評議員会が開催されました。規約・細則により来年度新2・3年生の評議員の中から本部役員4名の方々が厳正な選挙により選出されました。平成25年5月(予定)のPTA総会にて最終承認となりますが、速報として、ここにお知らせいたします。尚、会計や専門部長等は新年度に入り新1年生入学後の第2回評議員会で決定しますのでご理解ください。

平成25年度錦城中学校 PTA 会長 山田さん
 (副会長)クラブ育成会長 田中さん
 副会長 松本さん
 副会長 下田さん

※PTA 細則第1条5項により、上記の役員については、総会に先立って、平成25年度入学式より活動を開始することとなっています。